

## 第2回広島県総合計画審議会議事録

- 1 日 時 令和6年12月3日（火）午後3時00分から5時00分まで
- 2 場 所 広島市中区基町10番52号  
広島県庁北館2階 第1会議室及びweb
- 3 出席委員 芦谷委員、石田委員（web）、石原委員（web）、伊藤委員長、上野由紀子委員、加藤委員、金澤委員、菅委員、神田委員、木下委員、木山委員、小池委員、牛来委員、早田委員、日高委員、百武委員（web）、フंक委員、本多委員、松村委員（web）、森信委員、吉田委員（web）
- 4 議 題 (1) 施策領域別フォローアップの審議状況について  
(2) 今後の審議スケジュール
- 5 担当部署 広島県総務局経営企画チーム地方創生担当  
電話：(082) 513-2396（ダイヤルイン）

### 6 会議の内容（議事要旨）

#### 【施策領域別フォローアップの審議状況】

事務局から、小委員会において17の施策領域の取組の方向等について審議したこと、小委員会（フォローアップ）での意見要旨（事務局が骨子案を作成するに当たって、施策の方向等で考慮すべき意見）について説明

#### （委員）

- ・ 「広島県は中山間、過疎地域が7割を占めているため、都市部だけを考えた支援策にならないように、総合的に考える必要がある」と記載があるが同意見である。
- ・ 第2期広島県中山間地域振興計画を策定され、具体的な集落対策に力を入れるということなので、県全体で活力の創出ができる仕組みにしっかりと取り組んでほしい。

#### （委員）

- ・ 全体をいくつかのレイヤーで見ていく必要がある。1つ目は、ステークホルダーのレイヤー、つまり、個人であって、個人としての子供なのか女性なのか、社会人なのか、働いている人なのか高齢者なのか障害者なのか。2つ目は、その人に対してサービスを提供する企業なのか市町なのか、あるいはそれ以外の団体なのか。17の施策領域が設定され、領域ごとに主要な目的があるはずで、この目的がどうなっていて、その目的間の整合性がどうなっているのか。その目的を達成するための課題は何か、というレイヤー。課題を達成するためにどういう施策が必要か、施策間の連動をどうするのか、施策間の連動の仕組み。
- ・ テーマベースの話なのか、目標ベースの話なのか、課題の話なのか、施策の話なのか、入り

交じっているように感じられ、結局、全体のどこを指摘し、どう整合がとれ、足りない観点が  
ないのか。つまり、体系を整理する前の材料に抜け漏れがないのか、あるいは重要な視点が抜  
けてないのか、その観点での整理が重要ではないか。

(委員)

- 全体の中で抜け漏れがないかという観点を整理して議論するのは、最後の小委員会で意見が  
出たところ。小委員会では、領域ごとに議論した結果、いくつか共通するキーワードが出た。  
子供にフォーカスすると、親の働き方につながり、共育てというキーワードが出てきた。それ  
は、「持続可能なまちづくり」や「防災・減災」、「スポーツ・文化」などのあらゆる領域につな  
がってくるキーワードであった。ビジョンを見直すに当たって、そこを貫くような大きなキー  
テーマやキーワードのような骨太な線、貫くような何かがポイントになるのではないか。キー  
メッセージ、キーワードなど、キーのストーリーが見えてくれば、それぞれの立場、それぞ  
れのステークホルダーがもっと主体的に自立的に動くことができ、結果的にはネットワークが大  
きく機能するのではないか、といった議論を小委員会ではしてきた。

(委員)

- (資料1にある)意見のまとめは、まとめというよりも並べただけという印象である。小委  
員会でいくつかのキーワードや軸を見つけたというのであれば、そういう軸などを示してもら  
えるほうが議論しやすいのではないか。どういったキーワードが出てきたのか。

(委員)

- 「共育て」「働き方改革」という子育て世代の働き方といったキーワードがあった。また、「広  
島らしさ」として、自然の土地、自然を活かしたスポーツ、平和が挙げられた。個人をフォー  
カスしたストーリーを描くことによって、広島が目指している姿を示すことができるのでは  
ないか。個人の一生を見ることによって広島が提供したい、キーワードである、共育てや平和や  
スポーツがあるのではないか。小委員会ではそういった議論をした。

(委員)

- 県が一番危機感を感じたのは人口減だと思うが、県民が増えているときは何をやってもうま  
くいく。県民の数が減るとするのが問題である。これを大きく全体を捉えると、参加者は県民  
全員だと思っており、つまり、ステークホルダーはどこかを一部を取るのではなく、全部拾い  
たいが、1度に全部できないため、積み木のように重ねていったのが全体像だと思っている。  
何がしたいかという、県民の皆さんがここに住んでよかった、ここで楽しい、だから、また  
出て行っても帰ってきたい、そういう思いを思わせるような何か、広島県がそれを提供でき  
ること。施策に1本横筋を通すというのは、その何かをやることで、これにもこれにも関  
連し、そして、それが大きくなるということを求められているのではないか。

(委員)

- 中間まとめをどうするのかという方向性を事務局から打ち出してほしかったと感じる。この  
審議会ですどの部分を見直してほしいのかをはっきりさせてほしい。この審議会でアクションプ

ランに記載される個別のKPIなどを議論することは適切ではないと思っているが、指標の選び方など全体の方向性は、この審議会で結論を出す必要があると思っている。そもそも行政の成果として現れる指標なのかどうなのか、指標の現実性についてももう1度捉え直すべきではないかなど。

- ・ 県民に対して、何か広島が変わっていくと映るような、審議会としてのメッセージになるのではないのかと思っている。それが、中間まとめなどで表現できれば良いと思っている。

(委員)

- ・ 広島県の施策を例えばキャッチコピーにしたときに、ほかの県や市町の名前に替えても通じるような、そういうものではないものを作りたいという話が小委員会で出た。それが、ダイナミックな施策という言葉で表現されて、(資料1の中の)「全領域」の項目のところにある。それが、「共育で」なのか、やはり広島なので「平和」であるかもしれない。こういった審議会ですぐ々伝えていることではあるが、インパクトとパフォーマンス、ダイナミックという言葉で、この3つのキーワードで際立たせるようなものが、広島らしさという施策に絞って、重点課題としてできないか。

(委員)

- ・ 小委員会では、全体に通じる「広島らしさ」が欲しいというのが出たこと。もう1つは、県民目線が足りないという意見が出たと認識している。

(委員)

- ・ ビジョンは文字の羅列となっているので、分かりやすさという観点で、県民の皆様を示せるような環境をつくっていく必要があると感じている。一見ばらばらのような環境ではあるけれども、ひも付ける部分をまとめていくことによって、1つの文言として何か良いキャッチフレーズ、キーワードが生まれてくるのではないか。

(委員)

- ・ 何がアウトプットになるのかがわからないまとめ方になっている。小委員会での様々な意見に対して、結論を出さずに列挙している形になっているのではないか。今後この意見をどう料理していくのかを考えなければいけないのではないか。
- ・ どの地方自治体も人手不足や高齢化による活性度の低下が大きな課題であり、活性化をどうするのかを盛り込むべきなのではないのかと思っている。働きやすい、子育てしやすい、つまり暮らしやすいということをどのように表現するのが大事である。様々な政策を実行するためには、お金が必要であり、産業をどのように強くするのかとい議論が小委員会でもされなかったという印象である。中山間地域の暮らしをどうするかも大事ではあるが、一方で中心地の産業をいかに活性化していくのかに関しても、打ち手が明解にあったほう良いのではないか。

(委員)

- ・ まとめ方について、企業目線なのか住民目線なのかがわかりづらい。このビジョンの冊子を見たときに、誰が見ても広島に来たい、広島で暮らしたいと思えるようなわかりやすさを表現

する必要がある。

(委員)

- ・ 広島の特徴として、中高の教育が充実しており、大学進学時に県外に流出する人口が多い。それが悪いことかという、そうではなくて、1回出ていった人たちがどのタイミングで帰ってきて、帰ってきた後、どういうふうに通っていくのか、もしかすると、広島固有のものが何かあって、子育て世代に帰ってきてもらうために、それで「共育て」というキーワードが出てきた。その共育てをやろうと思ったときに、魅力的な産業、仕事がないといけない。ただ、幸い広島の魅力は豊かな自然や採れたてのお野菜や、空気が良くて、海も山もある環境、子育て環境という強みがある。そこにプラスアルファの産業の強みが出てきたときに、本当に帰ってきてもらえる広島がある。それで帰ってきたときに、豊かな生活に、自然環境、文化、スポーツ、平和などのキーワードがあるのではないかと。

(委員)

- ・ 人が住みやすいということで1人の個人に着目した観点は非常にわかりやすいので、それをベースにするのは良いのではないかと。
- ・ 誰が県民かを考えたときに、今後、外国人労働者が増えると想定されるが、当然、ともに生活していくパートナーになるので、そういった観点も盛り込むべきではないかと。

(委員)

- ・ 広島から出ていくことを食い止めるというのはもちろん大事である。もう1つは、広島で就職してもらって、仕事をしに来ていただく、そのきっかけを特に若者にどういう点でつくれるのかという議論はあまりされてないと感じる。若くて感度が高いときに広島に触れる機会はあると思うが、楽しくない修学旅行にならないように、素敵な魅力があるにも関わらず、関東圏、首都圏の若者に広島のことを聞いても何も知らないという学生が多いため、そこには手が打てる感じる。
- ・ 人口が減っていく中で素敵な社会をどうつくるのかを考えていく必要がある。
- ・ また、メッセージ的なものとして、誰にどんなメッセージを届けるのかが大事である。これは私に向けたメッセージであるとか私の会社に向けたメッセージであるとか、そういったメッセージを出せたら良いと思っている。具体的にどんな言葉になるのか、どういった計画になるのかを皆さんと議論ができればと思っている。

(委員)

- ・ ビジョン策定から3年程度が経過し、状況が変わってきて、どちらかというと厳しくなったことのほうが多くて、この問題にどう対峙するかというところが、1つ大きなポイントになると思う。
- ・ そのときに、改めて広島の強みは何かを整理し直したほうが良い。全体のトーンとして、強みを生かして、それを誇りに持って、そこから攻めていくという姿勢を持っておきたいと思う。私自身、Uターンした身であるが、広島にいる理由は何か、この計画の中でクリアに発信されることが重要であると思う。加えて、この計画を誰に向けたのかというところのメッセージの

送り先も、県民の方々はもちろんそうであるが、県外の方、企業から投資を得る、あるいは、広島に住んでもらう、移住なり来てくださる方に対するメッセージも意識をすることがあるなと感じる。そうしたときに、その打ち出し方として移住なり投資なり、あるいは誇りと考えたとき、産業はキーになると思っている。広島独自の課題や全国共通して抱えている課題をトップランナーとして解決することができるのであれば、ほかの地域をリードすることもできる。ソリューションが生まれると、そのビジネスをリードする可能性が出てくる。課題を出して、課題解決をどんどん促して、産業を促すというメッセージを出せば良いと思う。イノベーションが生まれる可能性もあり、そこを推進していくと、広島は面白そうだから行ってみるか、住んでみるかという方々も出てきて、それがどんどん広がり、日本の全体のレベル、あるいは世界レベルのような形に広がっていく可能性がある。課題を産業面からもポジティブに表現をして循環させるというメッセージを出すべきだと思っている。

(委員)

- ・ 中間まとめをどうするのかを示してもらえたほうが議論しやすいと感じる。社会情勢の変化を踏まえた見直しの意見はいくつか出ているが、非常に厳しい時代の中でも、広島に住んで良かったと思えるような、広島の強みを活かすとか、広島らしさを中間見直しで改めて示して、後半に向けて頑張っていくなどが必要なのではないか。共通テーマという意見もあったが、そういったものも良いのではないかと思う。

(委員)

- ・ 「平和」の領域で、合意形成力を持った人材育成という意見があるが、とても良いことだと思う。先ほどからの議論で、個々の意見については共感されているのではないかと思うが、まとめ方、どう打ち出していくのか、まとめ方自体に広島県らしさを出すことができるのではないかと、そこを皆様は期待されているのではないかと考えている。
- ・ 複合的に、横断的なテーマに対してどういう方針を持つのかなど、そういったまとめ方自体に広島県らしさが出てくるのではないかと思う。それは事務局というよりは、審議会の中で、委員の方の意見の中で、そういった表現、まとめ方に反映できれば良いと思っている。

(委員)

- ・ 狭い日本の中で、どんどん少なくなる人口を取り合うだけではなくて、広い国際的な視点や平和を愛する貴重な広島の立場などを活かして、取り合いではない方向で整理できれば良いと感じる。

(委員)

- ・ 中間見直しということで、特に医療を取り巻く施策についてどこがうまくいっていないのか、どこがうまくいっているのか、それももう少しプライオリティー、重要度別、優先度別に小委員会でももう1度、その項目を出していただいて、それについて我々が議論していくほうがまとめやすいのではないかと思う。一例を挙げると、がん対策日本一があるが、漠然としている。検診率を上げるのか、高度先進医療の治療成績を上げるのか、それとも喫煙防止、禁煙活動で予防に力を入れるのか、いろいろあると思うので、そういったことも含めて優先順位を明らか

にさせていただいて、広島県はどういう方向に動くということの方向性を見出していくべきではないか。

(委員)

- ・ 全て人づくりは教育だと思っている。広島県の全体的な教育がしっかりしたものになれば、広島地域、文化を知り、守っていくという方向性のある教育体制になれば、今ここに挙げられていることも、ある程度実現、あるいは解決ができるのではないかと思う。

(委員)

- ・ 広島県の姿を、平和や教育、様々な面から議論されたと思うが、広島県の姿を皆でつくり上げていこうという熱心に盛り上がって議論されたと感じる。ただ、市民、町民の皆様から、こういう苦しさがあって、家族で帰ろうと思ったが子供が就職先を見つけることができなかつたであったり、卒業したけど就職先がないであったり、様々な毎日の苦勞が私たちのところへ寄せられる。それを何とかして、ストレスのないような町をつかって、若い皆さん方も、また、今頑張っておられる皆さん方にもそういう町をつかって、できれば広島県全体にそういう姿が広がればいいという思いで冒頭話をした。話を聞いていて大変大きな課題の中で、探していこうというものを、意見の中で聞かせてもらったが、私たちは本当に毎日、困っていることを早くスピード感をもって対応してあげたいという思いでやっている。

(事務局)

- ・ まとめ方についていくつか御意見をいただいたところであるが、本日の審議会などの意見を踏まえて、今後事務局でビジョン見直しの骨子を検討していく。その骨子の中で、これまでいただいた御意見を反映させていこうと思っている。現段階で中間まとめや方向性といったものを示すことはできないが、骨子案を作成し、また御意見をいただきたいと思っている。
- ・ 施策の相互連関についても御意見いただいたところであるが、こちらについても、事務局、県の側でしっかり検討していきたい。

(委員)

- ・ まずこのビジョンは何のためのものか、もちろん県民に対するメッセージを出すということはあるが、これが県としての基本戦略であり、これとIRとは全く別なものだと思っている。誰に対して何のメッセージを出すかという話と、戦略としてどう設計するかという話は別のもので理解したほうが良いのではないか。ビジョンのメッセージ性は重要であるが、その話と県の総合戦略としての骨格をつくる話は別のものであると思っている。
- ・ そのうえで、施策領域の目指すべき姿を合計すると全部で81ある。81の目指すべき姿があるということは、それらに3つぐらいの課題があるはずで、3つぐらいの課題に対して施策は、おそらく3倍や4倍あるはずだと考えると、そもそも全体の目指すべき姿の整合性はどうかという話と、目指すべき姿が軸として、福祉、平和、文化にも、このステークホルダーに対してこれが重要なことであるなど、まとめていく作業は必要であると思っている。
- ・ 全体のアーキテクチャがどうなっているか、現段階のビジョンがどういう構造になっているのか。つまり、どういうテーマで、テーマごとの目標設定、その相互の関係性がよく分からない

い。つまり、子育てで5つ目標があっても、この5つの目標の関連性がよく分からない。だから、シナジーが利いているのか利いてないのかも分からない。あるいは、この子育ての話と教育は関連性があるはずなのに、どこでどう見ようとしているのかが分からない、というような構造になっているので、一旦、ストラクチャーを見える化すると理解が進むと思う。

- ・ そうすると、小委員会での意見が、どの部分の意見なのか、今のマップの中に、どこを改善するかという設計図の上にちゃんとそれがプロットできるようになってくる。全体を見ると、重み付けや軸のまとまりなど、そのマップを見てから出てくるとも思うので、まずステークホルダー、県民が最大の顧客なので、県民の軸と県民に対するサービスを提供する企業や市町の組織の軸と、そこに対する施策の軸と施策の目標と、目標から出てくる課題と課題から出てくる施策、この構造を見える化をすることをやって、そのつながりを見ていくとことを、最初のステップでやれば理解が進むのではないかと。

(委員)

- ・ 施策と施策のつながりを整理し、見える化するというのがどこまでできるのかはわからないが、県民にわかりやすく、見える化すると良いと思う。

(委員)

- ・ どの計画も同じような構造になっていると感じる。テーマがあり、それぞれの課題があって施策がある。それを今回どこまで変えるのかという議論はある。3年前の策定時から領域によっては方向性が大きく変わる部分もあると思うので、見える化の作業は必要であり、絞っていくということも必要である。

(委員)

- ・ ビジョンには17の施策領域があり、それを貫く3つの視点として、DX、ブランド、人材育成がある。いわゆる行政の縦割りだと17の施策領域であるが、横断的な視点というのが、この3つの視点だと理解している。今回の見直しで3つの視点を見直すのかどうか。また、別の見方で、概要版などでメッセージを全然違う見せ方するという方法もあると思う。
- ・ 「共育て」というキーワードについて、これは夫婦で育てるという意味なのか。男性が子育てに参画しても夫婦だけでは子育ては無理だと感じる。

(委員)

- ・ 共育ては、もちろん家族、祖父母の方、それだけでなく周りの、隣り近所の人、町で出会う人が、子育てを応援しているという雰囲気になって、企業も含めて社会全体で育てるという意味での共育てということだと理解している。

(委員)

- ・ 共育てという言葉が女性だけでなく男性もというように読めてしまう。家族や社会と共にとというニュアンスを伝わるようにしてほしい。
- ・ 教育の領域は中高生の教育施策が中心に記載されており、学校が地域でどういう意味を持つのかについては触れられていない。子供がいない人が学校に参加できる仕組みは学校運営協議

会しかないと感じた。学校が地域をつなぎ、子育ての拠点、防災の拠点、あるいはスポーツ・文化の拠点になるようなことは、教育の領域に記載することではないかもしれないが、学校という拠点の活用は、地域共生社会にもつながるのではないか。

- ・ 地域共生社会の領域では、人権関係のことが多く記載されており、いわゆる地域コミュニティのことも、外国人や障害者などのことが全部一緒になっているけれども、地域コミュニティについては、この施策領域から外すべきではないかを感じる。
- ・ 産業イノベーションについて、基本的に新しいものを生み出していこうという施策がとても多く感じる。経済団体などで活動していると思うことは、起業系の人たちのコミュニティの弱さを感じる。様々な施策から事業家が生まれていることは知っているが、商工会議所など旧来の団体との接触もなくて、見えてこない部分がある。そうしたコミュニティがないと、帰属の意識が生まれないので、もしユニコーン企業が生まれても、広島から育てていったユニコーン企業だというふうになりにくいのではないのかと思っている。広島のコミュニティを作っていくことを施策に盛り込む必要があるのではないか。
- ・ 資料1に働く女性は働いていて、家事も大変だから健診率が低いと記載があるが、育児をしている男性もいる中では、こういう記載はしないほうが良いのではないか。インクルーシブであってほしいと感じた。

(委員)

- ・ 各委員からそれぞれ意見があって、最終的にそれを県の事務局がうまくまとめていないと小委員会を通じてずっと思っている。委員からこれが大事だと思うという意見があって、それをその後どうするのかというのがわからず、何を求められているのかがずっとわからない。ビジョンの位置付けの資料があるが、総論で3つの視点があり、その後が、まさに県庁の縦割りのままに目標を割った、縦割りに一個一個に細かく目標を設定しており、進捗状況が思わしくないものもたくさんあり、それを見て議論をしてもしょうがなく、その1個上のところをどうするのかが必要である。その意味での議論が、1度もなされてないと思っている。何がこの場で決まったのかがわからない。各論を委員から意見を聞いても、何も統合されて行かない気がする。県として、最後どのようにまとめて、誰に何を提出するつもりなのか、そこがわからない。

(事務局)

- ・ 今回の審議会で今後の方向性を決定するというものではなく、小委員会と今回の審議会でいただいた御意見をもとに、事務局として、今後の見直しの方向性やどういったものを盛り込んでいくかなど、骨子案作成の段階で検討させていただきたい。

(会長)

- ・ 委員の皆様から意見をいただいたところであるが、総括として、小委員会の委員長から、全体的なコメントをいただきたい。

(委員長)

- ・ 参考資料1のこれまでの主な取組と成果であるが、17の領域があり、例えば、「子供・子育て

て」では、策定当初の10年後の将来像、イメージ、それから、それを達成するための取組の方向が記載している。小委員会においては、この資料に基づいて議論してきた。料理の話に例えると、メニューそのものは大きく変えることはできないが、個々の料理について、野菜スープの味のメリハリが利いていないとか、誰をターゲットにしたメニューなのか、満足度は高いのかどうか、だから、そのためにスパイスや材料などを見直してはどうか、といった議論をしてきたと思っている。それを踏まえた上で、大きな基本理念そのものは見直しできないが、個別の施策については、県民にじっくりくするように見直していく。けれども、現時点では、アイデア段階だと思っている。事務局の説明にあったとおり、資料に記載のある意見は羅列の段階で、本日の審議会の意見を反映させながら、骨子案のたたき台にしていくという認識である。

- ・ 小委員会についての感想であるが、3点ある。参考資料1は「まち・ひと・しごと 総合戦略」の評価、点検でも使用した資料である。その評価、点検作業については、個々の事業について細かい議論、スパイス、味付けについて議論してきた。小委員会では、大きな方向性、本当に顧客にじっくりきているのかどうか、大きな流れの中で、従来どおりの味付けで良いのかどうかといった方向性について議論してきた。事務局からは、大局的な見地からという要請があったが、大きな流れ、的確な流れを審議したかということ、必ずしもそこまでは至っていないが、資料1にあるとおり、ビジョンを見直す上でのポイントとなる項目は示唆できていると評価しているため、委員の皆様におかれてもそう受け取っていただきたい。
- ・ 2点目は、小委員会では、仕事と子育てのバランスなどの視点が特徴であった。領域で意見の弱い部分については、審議会の意見を汲んでいただきたい。
- ・ 3点目も同様に、生活実感のある生活密着型の意見が多かったと感じる。働き方と子育ての関連であったり、非常に面白いと感じたのは、ライフステージ、ライフサイクルに応じて、行政サービス、施策事業を結び付けることはできないかという意見があった。そうすれば、県民として生活実感が分かりやすく、参加意識、当事者意識も生まれるのではないか。そのためには、こういった施策事業とライフサイクルを見える化する工夫も必要ではないかという意見があった。市町は、住民に最も身近な基礎自治体で、基本的な福祉等のサービスを行っているため、そういった提示の仕方、ライフサイクルに応じた事務事業の提示の仕方は可能で、やっている自治体もあるが、県の場合は広域的な仕事が多く、市町とは違う提示の仕方を工夫する必要があると思うが、見える化し、当事者意識を持ってもらうことということはもっともなことだと思う。

(会長)

- ・ 施策領域別フォローアップの審議状況について、本日、委員の皆様からいただいた御意見を参考に、今後、骨子案の作成等を進めていただけたらと思う。

【今後の審議スケジュールについて】

事務局から、フォローアップで多くの意見をいただいたこと、いただいた意見を今後骨子案に反映することについて説明

(委員)

- ・ 本日の審議会では、専門分野に関する意見ができなかったため、後日メール等で意見することは可能か。

(事務局)

- ・ 事務局からメール等で照会させていただく。

(委員)

- ・ 活発な意見が出てとても良かったと感じるが、次回の小委員会が5月下旬頃までしばらく間が空くのが残念である。

(事務局)

- ・ 小委員会の委員の皆様には事前の相談などさせていただきたい。

(委員)

- ・ 皆様からの意見をどこまで改定に盛り込むのかのディスカッションは早いうちにしておいたほうが良いと思う。

(会長)

- ・ 本日いただいた委員の皆様の御意見や新たな視点を踏まえて、骨子案の作成に向けて、委員長はじめ小委員会の皆様方には大変な御負担をかけると思うが引き続き御審議をお願いする。

7 会議の資料名一覧

- 資料1 施策領域別フォローアップの主な意見まとめ
- 資料2 今後の審議スケジュール
- 参考資料1 これまでの主な取組と成果
- 参考資料2 社会経済情勢の変化
- 参考資料3 広島県のビジョンの位置づけ